

分科会報告会 第十九期研究成果を発表

総会に先立ち、第十九期の分科会活動報告会が、朝日氏の司会で開催された。発表時間十分、コメント三分、質疑二分の時間内容で、今報告会が最後となる邑都分科会や、久しぶりの登場となつた土地利用分科会を含む五分科会から研究成果が報告された。講評者、番匠氏の「新しいものにチャレンジした意欲作が多く見られ、今後に期待出来る」との講評が示すよう、新鮮で、遊び心にあふれた報告がなされた。

【交通分科会】
交差点の研究 交差点の持つ機能について調査し、今後求められるであろう交差点のあるべき姿について福井県内・金沢の事例を取り上げ報告した。

【土地利用分科会】
夜の中心市街地の活性化に向けて（その1）として、その手始めとして都市活動の夜間に着目し、夜の都市計画の序論として、その実態調査を行ない、その報告をした。

【緑分科会】
『城の橋通り』の景観整備について沿道住民にアンケート調査を実施し、その評価について報告した。

【地盤分科会】
地下資源『温泉』について、福井県東北地方を対象に地質や地盤の構造、地震との関係を調査し、どのようなところで温泉が出やすいのか検討し、また、アンケート調査から温泉の有効利用法を検討する。今後の方針を示唆した。



写真3
今後の研究会立ち上げについて語る野島氏

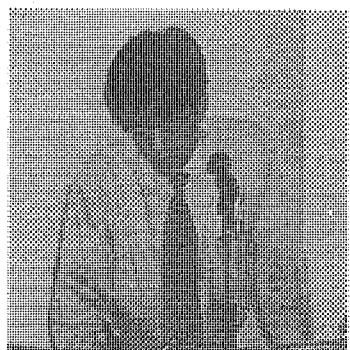


写真4
分科会発表の様子

【邑都分科会】
福井県における漁村集落の分類とその特徴について報告した。邑都分科会は当初の研究目的を達成したので今回を最後に解散することとなつた。

編集後記

（）街路樹をテーマに調査研究を重ねてきた。九六年度には行政の街路樹担当者によるノーケート調査を行った。

福井に似合う緑化手引書作成進む

産官学有志の地域環境研

☆いつまでも続くかのように思えた暑い日々も過ぎ、いつしか虫の音が心地よい季節となりました。生よりも“秋味”などビールに触手が伸びる方も多いのではないでしょうか。REFも十九期から二十期へと移り、菅原と佐野が広報を担当させていただけ事となりました。二十という節目の今期、記念事業に向けてREFはこれからが熱い季節となりそうです。この熱さをREF NEWSでお届けしたいので、会員、会友皆様の声を、ぜひお聞かせください。それでは次号をお楽しみに。

☆ニュースへの意見・要望、話題提供がございましたら広報担当までご一報下さいようお願いします。

☆メールアドレスは
e990825@icpc00.icpc.fukui-u.ac.jp

◎今期の広報支援に選出された福井大学のM1佐野正です。初めてのことですが、まだ分からぬことがあります。が、1年間？よろしくお願いします。

県内の各地域（）の街路樹整備の仕の方をまとめた「手引書」の作成、産官学の有志でつくる西日本研究グループ（福井地域環境研究会）会長・本多義明福井大教授が取り組んでいます。来年夏までは作成予定。同研究会の緑分科会（中村毅分科会長、十二人）が、一九九三年度から

☆入退会のおしらせ☆

<入会>
正会員 藤田 彰彦
金井 和信
北村 秀雄

<退会>
正会員 山下 隆市
鈴木 奈緒子
中田 加苗
木ノ下 康一
木乾 阳子
英 由紀夫
守 清治
三上 広城

室友

異動
(学生会員→正会員)
李 偉国
平井 勝治
安本 和幸
田辺 毅
(学生会員→会友)
浅田 潤
林 正樹

祝REF 20周年記念事業開催される!!

今期のメインイベントともいえるREF 20周年記念事業が1月20日(土)に福井県国際交流会館にて行われ、県内外から、100人を超える参加をみた。プログラムは以下のとおりである。

開会あいさつ

福井地域環境研究会会長 本多 義明

講演1

第1部

「パラダイムシフトの中の新しい地域づくり・まちづくりを求めて」
大阪産業大学教授 今野 修平氏

講演2

「まちづくりにおける市民参加とNPO」
早稲田大学教授 卯月 盛夫氏

第2部

「ほろよい討論会

「福井の地域づくりにおける市民参加の可能性」

討論者

松森 和人 氏 (市民活動ネットワークふくい会長)
山田 陽一 氏 (平成大野屋代表取締役社長)
高木 紀榮 氏 (福井アーバンデザイン研究会会长)
藤木 和人 氏 (南条熱中塾代表)
熊野 隆夫 氏 (福井新聞社大野支社長)
児玉 忠 氏 (福井地域環境研究会副会長)

閉会あいさつ
川上 洋司 氏・野嶋 慎二 氏 (福井大学工学部建築建設工学科)
福井地域環境研究会幹事長 稲葉 隆夫
司会 酒井 理恵

第一部講演内容

「パラダイムシフトの中の新しい地域づくり・まちづくりを求めて」

「まちづくりにおける市民参加とNPO」



写真1 会場風景

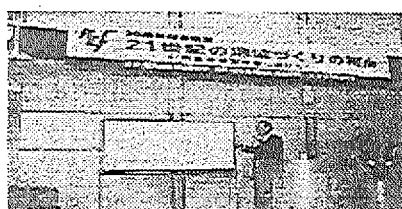


写真2 講演されている今野先生

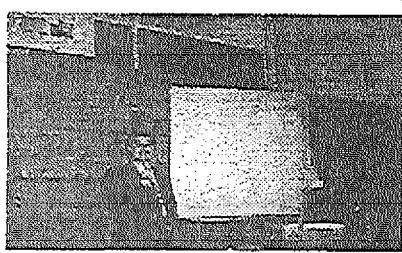


写真3 講演されている卯月先生

今野先生はこれから20年を考えいく中で、学生時代からこれまで、人々の倫理の中には「生産」というものがあったが、これからは「生産」という概念は通用しなくなると説き、キーワードとして交流、グローバリゼーション、文化、縮小、多民族の5つを挙げ、日本の人口が減少していくであろうからの20年について、「今野節」を披露された。

また、卯月先生は、市町村レベルの、住民参加を前提としたまちづくりについて、まず「まちづくり」という言葉について、その歴史や「都市計画」との比較をされ、市民がまちづくりに参加する権利を、告知権、聴聞権、質疑権、提案権、決定権の5つに分類し、先生がたづさられた集合住宅の建て替えの具体例をはじめて講演が行われた。どちらの講演も興味深いものであり、質疑・応答の多さからも、参加者の関心の高さが伺えた。

第2部 ほるよい討論会内容

「福井の地域づくりにおける市民参加の可能性」

つぎに第2部のほるよい討論会である。今回の副題にも「市民参加型社会にむけて」とあり、参加型で、本音の意見が必要になってくるだろうとのことで、座席も円卓形式とし、ピールとつまみで口をなめらかにして行われた。また、川上先生が討論会の趣旨について話があり、次に討論者の団体の活動内容を含めた自己紹介、そして野嶋先生の論点提起の後、参加者全体での討論へと進んでいった。時間をオーバーしながらも、顔を赤くし、熱く語る人が多かったことからも、討論会の盛況振りが伺えよう。

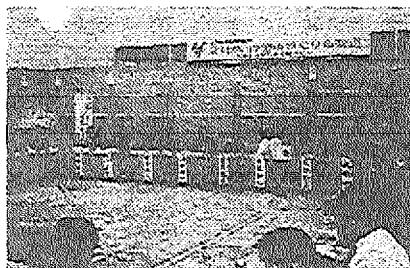


写真1 会場風景

写真2 参加者の質問

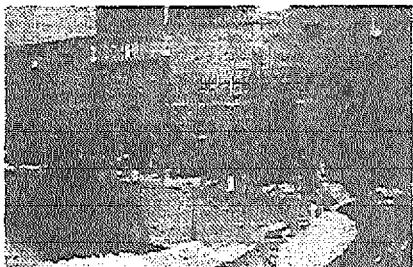


写真3 横横的な討論が展開された

REF 地域交流

「さいたま新都心」見学会

現在、首都圏の新しい核となる「さいたま新都心」の建設工事が、埼玉県大宮市・浦和市・与野市の3市にまたがる旧国鉄大宮操車場跡地付近で、2000年5月に街びらきを目指し急ピッチで進められています。

今回、大宮市のアニメ都市研究会の阿佐見氏にとおして、この「さいたま新都心」の見学会を以下のとおり企画いたしました。

年度末のお忙しい時期ではありますが、せっかくの機会ですので新しい街作りに興味のある方はふるってご参加下さい！（「さいたま新都心」の概要については、REF19号、P.69～P.74をご覧下さい。）

実施予定日 平成12年3月3日（金）～4日（土）

募集人員 特別制限はもうけません
参加費用 交通費・宿泊費で4万円程度かかりますが、1人2万円程度の補助を考えております。

お申込み、お問合せ先
福井県福井土木事務所工務第1課 野村吉範

TEL. 0776-24-5111
FAX. 0776-26-4111



写真1 埼玉スーパーアリーナとけやき広場

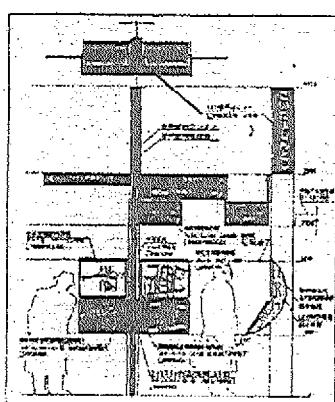


図1 バリアフリー対応歩行者系サイン

第56回 REF談話会の開催のお知らせ

日時 平成12年1月13日（木）
PM 6：30～8：30
場所 福井県職員会館 3F 302号室
テーマ 「REF海外都市調査報告会」
(ロンドン、ブリュッセル)

入退会のお知らせ

入会 正会員
山本 道隆
(福井新聞社広告局広告企画センター2部)
安本 諭章
(中央測量設計 設計部)

編集後記
師も走るといわれる師走も20周年を迎えるました。REFも20周年事業にむけ走ってきた感がありますが、この走りが分科会活動や、座談会、理論研などに向けられていくようですね。20周年事業についてには、REF20号で特集を組む予定です。ご期待ください。

福井大学M1の編集後記

早いもので、私がREF広報担当になつて1年が経ちました。至らないところもありましたが、何とかやり遂げられ、うれしい限りです。

本来の広報担当の仕事は、企画を立て、特集記事を書くことが任務と感じていました。来年からはまたたがつたとたん人任せになり自分が何一つ取組んでいい事に気が付きました。来年からは新しい企画を立て、REFニュースの空いたスペースを活用して、皆さんに楽しんでいただきたいと考へています。会員・会友の皆様に記事の依頼をする事が、今後、もしありましたら、ご協力よろしくお願いします。

また、面白い企画がありましたらご連絡下さい。

メールアドレス
e990825@wip00.ipc.fukur.

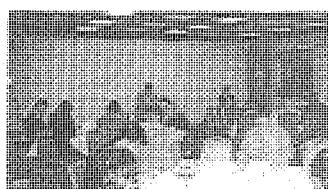


第二十期分科会中間報告会開催

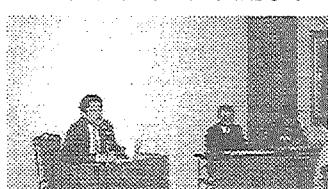
中間報告会が平成十二年二月十八日に、県民会館において約四十人の参加を得て行われた。まず、司会の菅原氏から開会の辞があり、それに引き続いだ副会長の児玉氏から開会の挨拶があった。その後、各分科会から時間九分（発表七分、質疑二分）で発表が行われた。各分科会のテーマは以下の通りである。その後野嶋先生の総評があり、稻葉幹事長の閉会の辞で分科会の中間発表は幕を閉じた。

中間報告会の後、同じ会場で懇親会が約三十人の参加を得て行われた。その中で、IREからの研究助成金の発表があり、一位は地象分科会が、二位は地盤分科会が獲得した。懇親会終了後、文化会活動費や研究助成金の入った皆がどこに消えていったのか……

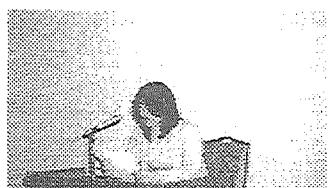
ここで、各分科会報告を紹介させていただきます。



緑分科会発表者 宇佐美氏



都市美分科会発表者 北嶋氏



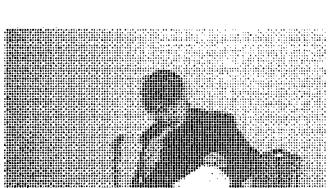
交通分科会発表者 酒井氏



地盤分科会発表者 野村氏



土地利用分科会発表者 沢崎氏



地象分科会発表者 龍崎氏

緑分科会

福井市「中央公園」のあり方について

まず、分科会の会員間でのブレーンストーミングにより、現在の中央公園の改善すべきと思つ点や理想的公園像などを抽出・整理し、概ねの考え方を決める。次に、その考え方を沿って会員が案を出し合い、最終的に分科会の案を提案する予定とすることで、ブレーンストーミングの中で出た主な意見が紹介された。講評では、ブレーンストーミングの意見が多岐にわたっているため、ある程度整理していくたまうがイメージが発散しなくて良いのではないかとの意見があった。

都市美分科会

路面電車を活かした街づくり

福井には素晴らしい電車が残つており、これをひとつアイデアとして歴史的な資産や文化を生かしたまちづくりとエデュテーメントが福井市中心市街地の景観軸や文化軸となると考へられる。ところで、昨年行われたイベントが紹介された。最近、路面電車は交通機能としては低く見られがちなのが、景観の要素としてに着目しているところがおもしろいとの講評があつた。

交通分科会

循環型都市形成の可能性について

従来の都市形成における問題点を把握し、これから地域環境問題に対応した、循環型都市形成の可能性について福井市を対象として述べた。ここでは、福井市の動向（交通と都市）からサステナブル都市と分散型都市との問題点・今後の方向性を示唆した。サステナブル都市とは何なのか熱く議論がなされた。

地象分科会

高速多重境界要素法による地震動現象の検証について

地盤の特性と地震現象の特徴を踏まえて、防災のための必要な措置が事前に講じられることは非常に有用である。そこで、高速多重境界要素法を用いた地震動現象の解析という難しい問題に挑戦することとなつたことで、解析手法が紹介された。講評としては、福井平野だけでなく、他の事例にいかせるのなら使っていい欲しいとの意見が出た。

土地利用分科会

夜のまちづくりにむけて（その2）

現在、まちづくりの方向、主体が変わっていく方向にある。昔は寺を中心に村が形成されており、その普請、作事をさぐっていくことで、現在の問題やこれからの方針をさぐっていくことここで、アンケート内容が示された。視点の面白さに興味をもつたとの講評があった。

地盤分科会

自然と人間との共生を考える

まず、小学生の頃の記憶に焦点をあてた自然環境の変化に関するアンケート調査を実施し、地域後に生息できなくなつた動植物を把握する。また、その生息環境を悪化させるような原因がどこにあつたかを調査することで、アンケート項目の案が示された。講評では時代にあつていて好感がもてる。また、小学生の頃の記憶に焦点をあてた点に興味がもてるとの意見があつた。

第56回談話会報告

前回開催した、談話会の内容を報告します。

日 時 平成12年1月13日(木)

場 所 福井県職員会館3F302号室

テーマ 「IRE海外都市調査報告会」

ゲスト 児玉 忠 氏(福井県土木部)

近藤 幸次 氏(福井県土木部)

白井 秀和 氏(福井大学工学部)

野嶋 慎二 氏(福井大学工学部)

今回は、去る平成11年7月30日から8月6日にかけて行われた、IREの海外都市調査(イギリス、ベルギー)の報告会をかねて談話会を開催いたしました。

まず、スライドを交えて、野嶋先生からはレッチワースの田園都市計画の現在について、近藤氏からは、ユーロスターやトランなど交通事情に関する説明が行われました。さらに、白井先生からは、建築物をメインとした説明があり、最後に児玉氏からは、ビデオ上映による説明がありました。

各々の説明中、参加者からの質問や意見交換が活発に行われ、いつもながら、時間制限に押し切られるような閉会となりました。

今回新たな試みとして、ビデオプロジェクターを使用したわけですが、写真とひと味違った旅の風情を感じることが出来ました。これからも積極的に活用していきたいと思いますので、是非、旅先でのビデオ撮影をお願いいたします。

今年は、談話会のテーマが乏しく、会員のみなさんから随時テーマを募集したいと思いますので、国内外、県内を問わず、お話のネタがありましたら幹事まで御一報いただければ幸いです。よろしくお願ひいたします。

新入会員のご紹介 VOL.1

安本 倫章(中央測量設計 設計部)

今回は中間報告会に参加されていた安本さん。本多研究室を経て、中央測量設計で現在御活躍中でございます。分科会の配属は地盤分科会です。今後の研究活動に期待します、頑張って下さい。



入会の挨拶をする安本氏

理論研究会報告

幹事 酒井俊雄支援 飯塚由美

【開催結果】

第1回:平成12年2月4日(金)

職員会館

第20期は、「行政における各種評価」をテーマとして、テキストや具体的な事例を用いた討論会を開催します。

内 容:

昨年土木学会が開催した「社会基盤整備における事業評価の意義を考える」と題するシンポジウム資料をテキストとして討論会を開催しました。当日は福井市の行政改革の担当者やコンサルタントで研究している方からも新たな資料の提供を受け、評価制度の必要性、評価方法、限界などについて、いつになく白熱した議論が行われました。

トリムパークで植樹祭!

トリムパークかなづ(県営公園)で、別添チラシのとおり住民参加イベントとして植樹祭が開催されます。

建設段階で地域住民の協力を得ながら、植樹したポット苗が将来的にみんなの森になっていくことで、公園をより親しみやすいようにしようという試みです。また、宮脇先生に森のはなし・植樹指導をしていただくことで、環境教育の場にもなると思われます。

問い合わせは、三国土木(82-1111)長谷川まで

△君夫妻
結婚おめでとう!
お幸せに!
うれし泣きさ!

u.ac.jp

メールアドレスは↓から
e990825@icpc00.icpc.fukui.

編集後記
二十周年記念事業までは落ち着いていた分科会や研究会の活動もここにきて本調子になってきたようです。6月の総会に向けて、さらなる活発な活動が楽しみです。

福井大学M1の編集後記

最近、ようやく暖かくなり、春らしい穏やかな風が吹くようになりました。よいよ新学期を迎え、私もいよいよ福井大学最後の年を迎えることになりました。今年は悔いを残さないようやっていきたいと思います。何事も楽しむこと、最後までやり抜くことの大切さを身をもって知りました。今後も精進し広報活動に参 加していきます。

分科会報告会

第二十期研究成果を発表

総会に先立ち、第二十期の分科会活動報告会が、楳田氏の司会で開催された。発表時間十分、コメント三分、質疑二分の時間内容で、六分科会と全ての分科会から研究成果が報告された。講評者加藤哲男氏からの総評（環境共生認知のメタ認知構造分析付き）のキーワードとなつた「環境共生」をテーマとした報告が多く見られた。

【交通分科会】 発表者 林快宗氏 討論者 三田村佳紀氏

自動車エネルギーの削減と循環型都市づくりについて
都市のあり方そのものが地球に優しい「サステイナブル都市」の可能性を福井地域で検証することを目的として、循環型社会に必要な4つの柱のうち、主に交通関係に視点を置いて、循環型都市形成の必要性とその在り方について検討するとともに、問題点を明らかにした。

【土地利用分科会】 発表者 沢崎幸夫氏 討論者 竹内成和氏

寺社を活用した人間都市の復権の一考察
空間的にも都市市民の意識としても病理的な側面が顕在化している都市環境のなかで、寺社、宗教を都市空間の一つとしての位置付け、その視点から「安らぎの場」「逃げの場」といったキーワードを導き出した。

【地盤分科会】 発表者 中村毅氏 討論者 棚田強氏

福井市「中央公園」の再整備計画
福井市の中心市街地に位置する中央公園が魅力的な空間ではなくなつてきて「いる」とから、現在の状況分析を行い、市街地サービス型、来街者誘致型の二つの視点からの再整備案を検討した。

【地盤分科会】 発表者 朝日郁代氏 討論者 橋本栄治氏

自然と人間との共生を考える
福井市の一地域を対象とし、この地域における開発事業の変遷を整理し、さらに各年代の人々の十代の頃の記憶をたどるアンケート調査により生物の生息環境がどのように変化し、それが生物にどのような影響を与えてきたかを把握した。

【都市美分科会】 発表者 北嶋勝三氏 討論者 戸倉一恵氏

路面電車を活かした街づくり
福井鉄道福武線を景観軸としてとらえ、福井市中心市街地の活性化について検討を行つた。路面電車を都市のエデュケーション的扱いとし、市民権を得る」とが最も重要な事であると説いた。

【地象分科会】 発表者 福井卓雄氏 討論者 白井秀和氏

福井地震の地盤動シミュレーションのための予備的研究
福井地震と福井の地盤の概要についてシミュレーションを実行する立場から整理し、高速多重極境界要素法によるシミュレーション技術の開発について紹介した。

☆入退会のおしらせ☆



《入会》 正会員	山本 道隆 安本 石川 稲津 袁	倫章 淑子 恭介 暁敏 喜彦 洋平
《退会》 正会員	中村 近藤 最上	雅一 忍 文彦 洋 茂樹 祐 曉帆 まゆみ
学生会員	川上 塗崎 竺 野内 高田 横田 林 芹田	中 元則 元 則 袁 近 藤 最 上 川 上 塗 崎 竺 野 内 高 田 横 田 林 芹 田
会友	漆崎 忍 文彦 洋 茂樹 祐 曉帆 まゆみ	君 から、先 日 の 懇 親 会 の な か で カ メ ラ マン 姿 が 好 評 だ た 最 上 君 に バ ン タ ッ チ さ れ ま し た。 この 二 人 で 一 年 間 REF の 活 動 の 紹 介 、 報 告 の お 手 伝 い が 出 来 れ ば と 思 つ て お り ます。
《異動》 (学生会員→正会員)	服部 金井 倉田 正秀 智志 智幸	支援は、優秀な編集者だった佐野 君 が 今 期 も 引 き 続 き REFNEWS を 担 当 さ せ て い た だ く い と と な り ま し た。

編集後記

梅雨も明け暑い日が続き、地球にやさしい冷房温度二十八度が恨めしく思える毎日です。今回行われた分科会報告では「環境共生」がキーワードとなつていて、度の代案としての説得力が欲しかったと思つてしまつた身勝手な菅原が今期も引き続きREFNEWSを担当させていただくこととなりました。

支援は、優秀な編集者だった佐野君から、先日、懇親会のなかでカメラマン姿が好評だった最上君にバントンタッチされました。この二人で一年間REFの活動の紹介、報告のお手伝いが出来ればと思っておりました。

菅原さん、お手伝いが出来ればと思っておりましたが、菅原さんの足を引っ張ります。ですが、菅原さんのお手伝いをさせて頂くことになりました最上洋平です。自分にこの大役が務まるのかどうか不安でいっぱいですが、菅原さんの足を引っ張ることの無いよう精一杯頑張ります。よろしくお願いします。

(ビルはドライ派・最上)

ニュースへの意見・要望、話題提供がございましたら広報担当までご一報下さるようお願いします。メールアドレスは
k-sugahara-6i@ain.pref.fukui.jp

REF ホームページ運用開始

REF のホームページが運用開始となりました。アドレスは次のとおりです。
<http://homepage2.nifty.com/REF/index.html>
メニューやニュース、REF ニュース、掲示板、メール、などの他のプロファイル
となっています。

トピックス・行事予定等

REF ニュース・過去のREF ニュースをダウンロードできます。(REF 形式)
掲示板・会員同士の連絡などにお使い下さい。
メール・問い合わせにお使い下さい。
この会のプロフィール・REF の由来、事業内容などが書かれています。

REF ニュース配布方法について

ホームページが出来た事で、REF の案内やニュースも配達作業の迅速化、合理化
の観点から、郵便による方法からホームページや、メールによる配信に出来ないかと
考えています。そこで、メールアドレスをお持ちの方は、「REF ニュースはメール
だけでよい」、「案内、REF ニュース共にメールだけでよい」等の旨を記入の上、
以下のメールアドレスより連絡下さい。

広報幹事・菅原 k-sugahara-6@ain.pref.fukui.jp

支援・最上 e001914@icpc00.icpc.fukui-u.ac.jp

REF 総会開催

REF 総会が7月14日(土)14時から福井県職員会館101
号室にて行われます。中間発表から、さらに掘り下された各分科
会の発表が期待されます。
また、総会後、懇親会も予定されています。皆さんの参加をお待
ちしております。
出欠については同封の葉書をご利用下さい。

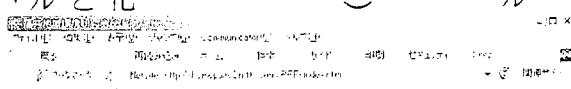
☆入退会のおしらせ☆

《入会》

正会員	美濃部 雄人
	丹羽 栄基
学生会員	小塙 みすず
	西澤 智昭
	寧 哲波
	松本 武知
	三寺 潤
	三村 泰広
	湯浅 陽子

《退会》

正会員	八木 建一
	小林 建一



福井地域環境研究会 (REF)

第一十一期 海外研修先決定

編集後記

第一二期の海外研修先はマレーシアのクアラルンプール、イポーに決定しました。日程は八月二十九日～九月一日を予定しており、現在参加者を募集しています。地方の中核都市であるイポー市との交流予定しています。以前福井駅周辺整備事務所に勤務していたイポー市役所のハシム氏と連絡が取れ、交流を快く引き受けてくれました。また、クアラルンプールには一九八八年に一度訪問しており、今回が二回目の訪問になります。

日程(案)・平成十三年八月二十九日(水)～九月一日(日) 四泊五日

一四日 朝 福井発

午前 関西国際空港又は名古屋空港発

一四日 午後 イポー 市内交流先訪問
夜 クアラルンプール着後、イポーへ(イポー泊)

二四日 午前 イポー 都市調査
夕方 クアラルンプールへ(クアラルンプール泊)

三四日 終日 クアラルンプール 班別都市調査

三四日 終日 クアラルンプール 班別都市調査

五日 朝 クアラルンプール発

午後 名古屋空港着

費用：約十五万円(学生参加者、初参加者などには補助を予定)
募集人数：十名以上

申込先：福井空港建設調査事務所 伊豆まで

TEL 0776-51-4066 FAX 0776-51-4102
E-mail itoyaku@yu.incl.ne.jp 又は yito23@ain.pref.fukui.jp

☆☆☆ イポーの豆知識 ☆☆☆

イポーはクアラルンプールの北側ペラ州の州都で、人口は国内第四位の約五十万人。華人が多い街で、至る所に漢字の看板が見られる。周辺にはすずの鉱山や工場が集まり、国内有数の経済圏である。また、クアラルンプールとペナン島の中間に位置する交通の要衝でもある。旧市街地にある鉄道駅や官庁街などのローニアル建築もある。福岡市と姉妹都市の関係にある。

気がつくと衣替えも終わり、総会の季節となりました。ニュースのペースがかなりのんびりとなつていて反省しております。さて、総会に向か、各分科会はラストスパートとなります。身のある報告書の締め切りも迫りました。無事印刷が間に合うよう、皆様のご協力お願いいたします。

(菅原)

暑い時期がやつてもきました。「夏は嫌いじゃないが、このジメジメ感がどうも」と考えるのは私だけではないと思います。思えば、私が広報支援に選出されたのもちょうどこのジメジメした時期でした。そうです、一年経ちました。短い間でしたが、福井の地域と環境を研究する会の一人として、広報の仕事に携わることができる大変よかったです。

(最上)

ニュースへの意見・要望、話題提供がいよいよあたら広報担当おでこ一報下さぬようお願いします。

メールアドレスは
k-sugahara-6@ain.pref.fukui.jp
e001914@icpc00.icpc.fukui-u.ac.jp

第二十一期研究成果を発表

総会に先立ち、第二十一期の分科会活動報告会が、三田村氏の司会で開催された。本多会長からの「20年もたつとマンネリ化してくる。若い人のREF活動を活発にするアイデアで求めます。」といった挨拶に始まり、あいさつ発表時間十分、コメント三分、質疑二分の時間内容で、今回は五分科から研究成果が報告された。また、報告後の美濃部氏の総評により、それぞれの発表がさらに深いものとなつた。

【地盤分科会】

発表者 竹内成和氏

討論者 服部正秀氏

自然と人間との共生を考える(2)

調査範囲を狐川の下流域を中心としたエリアとし、生物の生息状況を現地調査を基に把握した。また、生息環境に大きな影響を与えたと思われる開発行為について把握することで、生物の生息状況と開発行為には深い因果関係があることが明らかとなつた。

【土地利用分科会】

発表者 沢崎幸夫氏

討論者 白井秀和氏

地方都市における中心市街地活性化について

武生市を対象とし、地方都市の中心市街地の空洞化をテーマとし、プロジェクト、整備課題、施策の展開の現状、空洞化の要因を整理した。

【緑分科会】

発表者 三田村佳紀氏

討論者 呂玉忠氏

リモートセンシング技術を活用した福井地域の環境調査

衛星リモートセンシング技術を用いて、LANDSAT衛星の観測データを解析することで、福井県内における公共事業の環境への調査および評価に取り組んでおり、分類画像から市街地、平野部、山林、大規模開発、河川水の流れが判読可能であることが明らかとなつた。

【交通分科会】

発表者 酒井理恵氏

討論者 塚本勝典氏

都市のコンパクト性に関する研究

コンパクトシティの基礎的研究として、アクセシビリティと環境の面から地方都市における都市のコンパクト化の可能性について考察した。福井のような低密度分散型の都市においては、都市中心部の魅力向上と再活性化、高齢社会を主眼としてコンパクトシティの意義を論じていこうことがいつそう求められると説いた。

【都市美分科会】

発表者 白井秀和氏

討論者 川本義海氏

路面電車とエデュテイメント：そして、市民参加のまちづくり

中心市街地の拠点を路面電車により結びつけ、ネットワーク化する移動手段として活用する事に重点を置いた。また、中心市街地の活性化につながる、アメニティネットワーク・コミュニティネットワークの源となるものとして、エデュテイメントネットワークの研究と、エデュテイメントを活用した住民参加への誘導と取り組みをまとめた。

報告会の模様

総評を行なう美濃部氏

熱弁を振るう都市美分科会の白井氏

★入退会のおしらせ★

《入会》

正会員

高木直茂
坂田正宏
二宮年久

学生会員

小塚みすず
西澤智昭
松本泰廣
三村陽子
湯浅潤子
三寺恭子
金口茂毅
堀井則則
福井義典

《退会》

正会員
会友
学生会員

八木健一
小林正信
田辺仁典
折田恭介
稻津茂毅
堀井義典

《異動》

(学生会員→正会員)
佐野正
林快宗
飯塚由美
寺内義典

会友

正会員
会友
学生会員

正会員

八木健一
小林正信
田辺仁典
折田恭介
稻津茂毅
堀井義典

連絡先教えて
ください
yminura@iain.anc.dfu
kui-u.ac.jp
(三村)

現在、下記の方との連絡
が取れなくなっています。
お心当たりの方は広
報までご連絡ください。
山田浩二氏
金澤和夫氏
斎藤浩幸氏

【編集後記】

今期も引き続き広報を担当させていただきます。まずはニュース、ホームページなどとなってくるわけですが、この二つ、どのようないくつかになるのか、この1年試行錯誤していきたく思います。(菅原)

今回から広報支援としてお手伝いさせていただくことになりました三村です。なにかとオロオロしてご迷惑をおかけするかもしれませんのが、精一杯がんばりますので、どうかよろしくお願いします。(三村)

ニュースへの意見・要望、話題提供がございましたらお問い合わせ下さい。メールアドレスは
k-sugahara-6i@ain.pre.fukui.jp (菅原)

2001.10.23

第117号

発行: RESEARCH GROUP OF REGION AND ENVIRONMENT IN FUKUJ

〒910-0006 福井市中央3-1-5(三谷中央ビル9階 地域環境研究所内)

(財)地域環境研究所内 福井地域環境研究会

TEL. (0776)27-0078 FAX. (0776)27-7851

<http://homepage2.nifty.com/REF/index.html>

第二二期海外研修から無事帰国

REFの第二二期海外研修は八月二十九日～九月一日の日程(表参照)で、マレーシアのクアラルンプール(以下、KL)とイボーで実施され、団員10名(表参照)は無事帰国した。

今回の研修は、一九八八年以来二年ぶりにKLを視察し、その変遷を見るだけでなく、地方都市のイボー市を訪れることで福井のまちづくりに活かせる何かを探ることが狙いであった。イボー市役所には、以前福井駅周辺整備事務所に勤務していたズハイリ・ハシム氏が勤務していることや、福岡市がイボー市と姉妹都市の関係にあることから、双方の協力を得て、表敬訪問が実現した。

研修の概要は以下の通り。

初日(八月二十九日)はイボーまでの移動となつており、関西国際空港→ランカウイ経由→KLIA(クアラルンプール国際空港)で乗り継ぎ、イボーまで、合計約一六時間の長旅であった。

翌日(八月三十日)、長旅の疲れが心配されたが、イボー市表敬訪問では、

月日	行程	団員構成
八月二十九日	七時 福井発	団長 川上
三〇日	関空発 KLIA乗継	副団長 萬匠
	現地二二時 イボー着	加藤式
三一日	夜 KLへ	野嶋 伊戸 野村 野澤
三二日	午前 全員で市内視察	金口 西澤 野村 野澤
三三日	午後 各班ごとに調査	堀井 福井
三四日	終日 各班ごとに調査	独立記念日
三五日	一二時三〇分 KL発	一二時三〇分 KL発着

添乗員

出口

堀井

福井

金口

西澤

伊戸

野嶋

野村

野澤

活発な意見交換が展開され、その後、ズハイリ氏をはじめ、イボー市職員の方々に、イボー市内の住環境や公園などを案内していただいた。イボー市にはわずか一日足らずの滞在であったが、大変有意な時間を過ごさせていただいた。

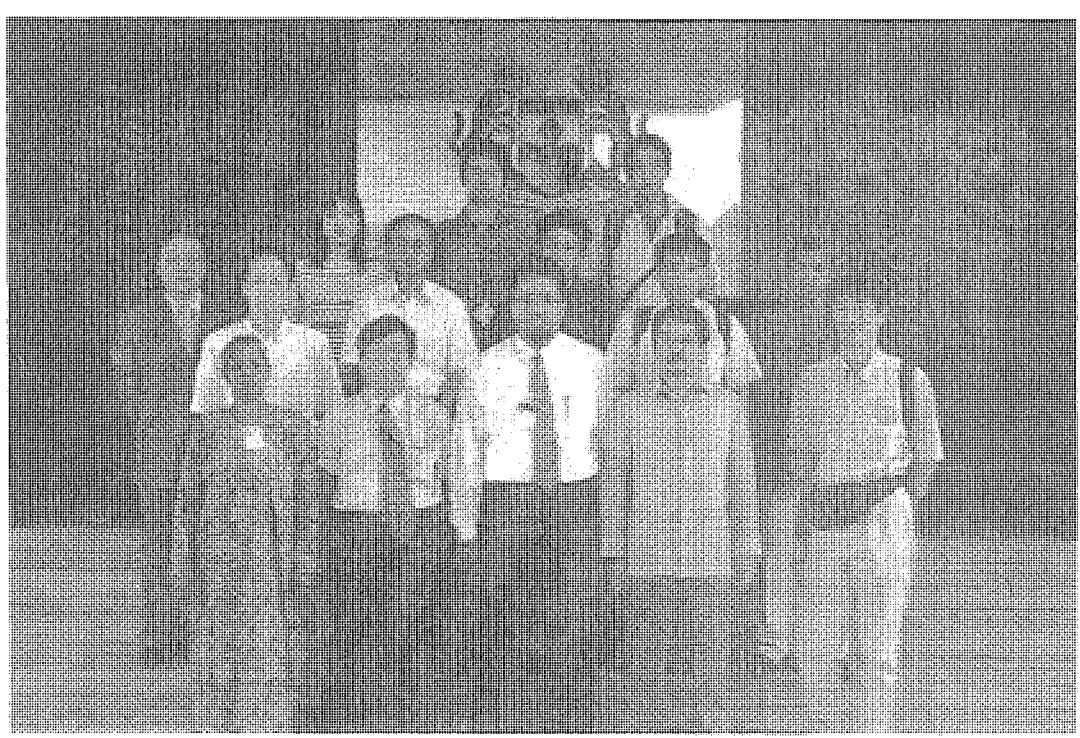
二日目の夜、KLに到着した。ちょうどその翌日の八月三二日は、マレーシアの四四回目の独立記念日であり、その前夜祭で、街中が盛り上がっていた。団員もその雰囲気を肌で感じようと、宿泊先に到着後、早速観察に出かけた。独立記念日がない我々日本人にとっては貴重な体験であったと言える。

三日目(八月三二日)は独立記念日であったが、午前中に記念式典が終わると、KLの街は正常さを取り戻し、二日目午後以降、団員は、都市交通調査班と都市環境調査班に分かれ、都市交通調査班は、新都市交通システムLRT、各交通機関のターミナルなどを中心に、都市環境調査班は住環境を中心調査を行った。各団員ともそれぞれの目的を持ち、時には郊外まで足を伸ばすなど、時間の許す限り街中を歩き回った。

これらの詳細な調査結果は、後日まとめる予定の報告書を参考にしていただきたい。

最後に、幹事個人的なマレーシアの印象を二点ほど述べると、マレーシアは、一九九五年統計で五七%がマレー系、三三%が中国系、九%がインド系、一%がその他と多民族国家であるが、彼らには、内戦、差別、偏見などは全くなく、貧富の差はあつても皆平等(これは街を歩いていても感じた)であり、すばらしい国家であると思つた。また、マレーシアは二〇一〇年に先進国の仲間入りを目指し、各地でインフラ整備が進んでおり、近年建設されたKLIA、それとKLを結ぶ高速道路や、首都KL(何年も前であるが)等はジャンブルを切り開いて建設されている。しかし、KLの中心部でも豊かな緑が残つており、全体的には美しい街であったように思える。ともあれ、帰国後まもなく、アメリカでのような事件が発生したことを思うと、団員全員が無事帰国できることは、なによりも感謝すべきことである。これも同行していただいた添乗員や現地ガイド、そして福岡市やズハイリ氏をはじめとするイボー市職員のご支援があつたためであり、ここで改めて感謝の意を表したい。

イボー市にて



第6回国際会議開催

『モンゴル都市調査（やハ・バートル市周辺調査）報告書』

ゲスト：橋本拓己氏（国土交通省近畿地方整備局）
加藤哲男氏（名古屋産業大学）

近藤幸次氏（福井県土木部）
村松俊明氏（地域環境研究所）

平成13年8月6日、国際協力事業団（JICA）の道路計画専門家としてモンゴル共和国に赴いていた橋本氏（財）地域環境研究所の国際共同研究プロジェクトとしてモンゴル都市調査に参加された加藤氏、近藤氏、村松氏をゲストにお迎えし、談話会が開催された。モンゴルの交通関係専門家（インフラ省交通担当者、同道路担当者、ウランバートル氏計画担当者）との座談会やウランバートル駅駅長との会見の内容が報告されたほか、道路整備状況、都市環境、商業空間等についてスライドを交えた発表がおこなわれた。

トランジットモール社会実験開始

駅前電車通りがトランジットモールになる。十月十一日から十一月4日の約一ヶ月間、路面電車とスマイルバスのみが通れる「トランジットモール」が日本で初めて試行される。実験期間中に限り、福井鉄道福武線の福井新～福井駅前～田原町を三十分間隔で運行し、運賃は一律百円（小学生五十円）となっている。同時にパーク&ライドも行われ、無料駐車場が配備されている。あた期間中、多彩なイベントが催されている。実施内容は次の通り。

【イベント開催期日】

十月十一日	オープニングセレモニー
十月十三日	よさこいまつり
十月二十日	都市緑化祭
十月二十七、二八日	ドニッヂョ祭り
開催期間中の土日	日本・世界の路面電車展

《入退室のお問い合わせ》

【編集後記】

今期も引き続き広報を担当させていただきありがとうございました。ホームページも徐々に書き込みが増えてきましたが、更新情報をお手元でお読みでもないのか、幹事会で検討してもらいたいのです。そこで、メールアドレスをお持ちの方には、ホームページからのメールの送信が行きませんので、わざわざ連絡先のアドレスを記入していただけますようお願いいたします。あたその際に、「NEWSや案内はメールだけですよ」という方は私の立場から記入願います。（菅原）

夏の暑い時期も過ぎ、最近は風が冷たく感じながらなつました。朝晩の冷え込みが強くなって、冬の到来を思われます。なにを書いているのかよく分からせんが皆様お体にはお気を付けてください。
（三村）

ニュースへの意見・要望、話題提供がいよいよしたいなとおもひます。お手元にお届け下さい。一報下さるのもうれしいです。

メールアドレスは

k-sugahara6i@ain.pref.fukui.jp

（菅原）

ymimura@anc.anc-d.fukui-u.ac.jp

（三村）

第22期REF幹事会（第1回）開催

平成13年9月26日（水）18時30分～20時30分に（財）地域環境研究所にて、第

22期REF幹事会（第1回）が開催され、議題として、本期の幹事会運営方針、各担当幹事の活動計画、各分科会の研究テーマなどが話し合われた。

特に、幹事会としては、REF活動の活性化のためキーワードとして「子供」「エイジケアー」をとりあげ、その具体的取り組みとして、①ホームページを用いた情報のさらなる共有化、②小中学校（総合学科）・公民館活動との連携の可能性、③インターネット形式の回顧録編集などについて議論した。各分科会・活動等の内容については次の通り。

【交通分科会】

第22期の交通分科会の研究テーマについて、前期に引き継ぎ「都市のコンパクト性に関する研究」を進め、地域でのより具体的な方向性を示せねばなりません。しかしながら7月の研究発表会以降、まだ新年度の分科会を開催していませんので、今年度の内容についてメンバーとともにわかるだけ早い時期に検討を始めたいと思います。

【地象分科会】

地象分科会の第22期の活動テーマは「高速多重極境界要素法を用いた福井地震の地震動シミュレーション」の予定です。活動はまだ再開していませんが、二次元解析でも作業が大変なため、福井大学の福井先生の指導を得ながら進めていきたいと考えています。

【緑分科会】

緑分科会は、8月7日（火）に県民会館で本期の初会合を開きました。本期は、前期に引き続き、ハンドサットデータをもとに福井地域の土地利用の変動を調べていくことになりました。

【談話会】

談話会の内容について再検討し、これまでよりも魅力的な談話会の開催を目指していくことがあります。

（三村）

（駐車料金無料・電車料金半額）

（パーキング＆ライド無料駐車場）

（2時間無料）

田原町駐車場（フュニックスプラザ横）100台

（駐車料金無料・電車料金半額）

ベル前駅

ハーモニーホール駅

三ノ和

浅水駅

（中央測量設計株）

北川俊美氏

（株北陸環境科学研究所）

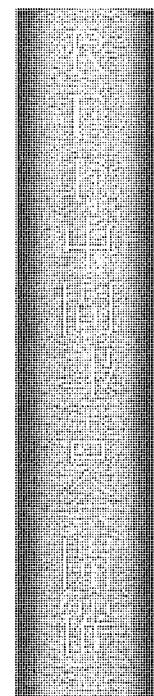
2002.2.25

第 118 号

発行：RESEARCH GROUP OF REGION AND ENVIRONMENT IN FUKU
 〒910-0006 福井市中央 3-1-5(三谷中央ビル 9 階 地域環境研究所内)
 (財)地域環境研究所内 福井地域環境研究会
 TEL. (0776) 27-0078 FAX. (0776) 27-7851
 REF ホームページ <http://homepage2.nifty.com/REF/index.html>

【第十二期】

REF 第二十二期中間報告会が一月八日(金)福井県民会館で行なわれ、道久英一氏の司会で各分科会のこれまでの活動が報告された。今回発表を行なったのは「緑分科会」「都市美分科会」「地盤分科会」「交通分科会」の計四分科会。報告会後には懇親会が開かれ、会員相互の交流が深められた。



午後六時、本多義明会長の「REFの中間報告会は今回で二十回目。これまでの成果の中締めとして発表して頂きたい」といった挨拶から第二十二期中間報告会は始まった。今回の司会は新たに入会された今立土木事務所の道久氏。発表時間七分、講評三分、質疑応答一分の時間内容の下、昨年夏からの研究成果を報告するべく各分科会からそれぞれ発表者が熱弁を振るつた。滞りなく各分科会の報告が終わつた後、こちらも新たに入会された総評の岡本光之氏から「このような各分科会の活動が福井のためになる」といった総評が行われ、それの報告が更に深いものとなつた。最後に幹事長の野村吉範氏から「」の中間報告から本報告に



会場の様子



【研究助成金発表】

今回研究助成金を受けたのは中間報告を行なった全四分科会中、三分科会。光之氏から「このような各分科会の活動が福井のためになる」といった総評が行われ、それの報告が更に深いものとなつた。最後に幹事長の野村吉範氏から「」の中間報告から本報告に

- ・助成金二万円 緑分科会
- ・助成金一万元 交通分科会
- ・都市美分科会

のに仕上げて
いつて欲しい」という閉会の
辞で第二十二
回中間報告会
は幕を閉じた。
その後会場
を移し、三寺潤
さんを司会に
懇親会が開か
れた。会員相互
が交流を深め
るなかで、新た
に入会された
五名からの挨
拶や、優秀な分科会に送られる研究助
成金支給の発表など大いに盛り上りを
見せた。

【分科会中間報告会】

《各分科会報告会名》

【緑分科会】

発表 三田村佳紀 氏 講評 美濃部雄人 氏

リモートセンシング技術を活用した福井地域の環境調査

講評 美濃部雄人 氏

前回の報告で行なった土地被覆分類で課題

であつた分類精度の不正確さに対し、今回はその精度向上・分類精度の向上を目指し、条件別の分類精度検証を行なつた。精度の良い分類手法、精度を上げる被覆区分の代表領域（トレーニングエリア）の設定が明らかになつた。

【都市美分科会】

発表 白井秀和 氏 講評 酒井俊雄 氏

バロック都市を目指して 新・都市美論バロック都市を「人を惹きつけてやまない都市」と仮に定義し、「福井をこの視点で見てては」という提案を行なつた。講評・質疑応答では「開放された都市というのは面白い視点」などといった意見が上がつた。

【地盤分科会】 発表 安本倫章 氏
講評 村田一也 氏
地場産業が根づく条件を考える



発表 安本倫章 氏



講評 村田一也 氏

地域にとって大きな武器となる地場産業について、それが根づく条件を類型化し、地場産業の産出・継続のための条件を提案する」と目的として、今回その調査方法についての報告があつた。講評・質疑応答では「福井だけではなく金沢なども類型化しては」「一番強いと思われる人との関連を加えては」などといった意見が上がつた。

【交通分科会】

発表 川本義海 氏 講評 丹羽栄恭 氏

地域考へ交流と連携へ

過去・現在・未来の地域連携・交流についてその今日的意味から考察を行ない、連携・交流を捉える指標と分析手法についての検討結果が報告された。講評・質疑応答では「地域の個性を見ていくのはおもしろい」などといった意見が上がつた。

《入退会のお知らせ》

【入会】村田一也氏 (福井大学)

【退会】武井幸久氏 藤田彰彦氏

【編集後記】

今回のREDFニュースから希望される方にメールによる配信を行ない始めました。これからは会員相互の情報交換には、これまで以上にホームページ(<http://homepage2.nifty.com/REDF/index.html>)やのよる電子媒体を用いた方法を促進していくたいと思います。そりやメールアドレスをお持ちの方は、お手数ですが、REDF広報までご連絡ください。皆様のご協力お待ちしております。

・今回のNEWSは取材から原稿作成まですべて支援の三村君にやつてもらいました。
三村君どうもありがとうございます。
・もうすぐ春ですね…。

(菅原)
(三村)

ニュースへの意見・要望、話題提供がございましたら広報担当までお一報下さるようお願いします。メールアドレスは

k-sugahara.6@ain.pref.fukui.jp

(菅原)

yminura@anc.anc-d.fukui-u.ac.jp

(三村)

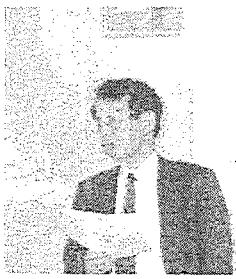


News

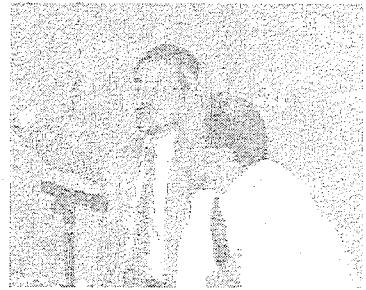
2003.06.19

第 121 号

発行: RESEARCH GROUP OF REGION AND ENVIRONMENT IN FUKUI
 〒910-0006 福井市中央 3-1-5(三谷中央ビル 9 階 地域環境研究所内)
 (財)地域環境研究所内 福井地域環境研究会
 TEL. (0776)27-0078 FAX. (0776)27-7851
<http://homepage2.nifty.com/REF/index.html>



挨拶を行う本多会長



説明を行う加藤氏と堂本氏

REF 調査会開催

《ヘルシンキ・タリン・サンクトペテルブルグ報告会》

平成15年5月22日(日)、ヘルシンキ・タリン・サンクトペテルブルグ都市調査研修の報告のため福井県職員会館で談話会が開催された。

まず本多団長からの挨拶があり、次に調査班の代表からそれぞれ報告が行われた。

蔡星柱氏、加藤哲男氏、堂本博滋氏から報告が行われた。まず蔡氏から写真を使って街の雰囲気やそこから感じた点等が報告された。次に都市計画調査班の班長でもある加藤氏からヘルシンキ都市計画局訪問の報告が行われた。そして最後に都市景観調査班の班長である堂本氏から発表が行われた。

都市計画等に造詣の深い3氏からのユーモアを交えた話は、出席者にとって非常に興味深いものとなつたようだ、時間がなくなるまで質問や感心の声が絶える事はなかった。

【視察概要】

参加者: 団長 本多 義明 (福井大学副学長)

副団長 高橋 正樹 (株帝国コンサルタンクト)

交流担当 加藤 哲男 (名古屋産業大学)

幹事 堂本 博滋 (有総合環境設計)

川本 義海 (福井大学工学部)

杉森 正義 (福井県コンクリート工業組合)

蔡 星柱 (福井大学大学院)

寺内 義典 (国土館大学工学部)

部谷 政義 (株東陽機械製作所)

中屋 衛 (株帝国コンサルタンクト)

二宮 年久 (株トーニチコンサルタンクト)

谷口佳奈子 (株ホクロン)

柴田あけみ (財団法人・地域環境研究所)

添乗 田辺 照雄 (株阪急交通社)

日程: 平成14年8月21日(水)～23日(水)

(詳細は裏面参照)

【編集後記】

あつと/or間に暑くなり、いよいよ夏本番となつてきました。遅れながらもREFニュースを発行できるのことを嬉しく思います。また広報担当も変わりますがこれからも「指導」鞭撻のほどよろしくお願いします。(平井・武藤・松井)

ニュースへの御意見・御要望・話題提供等がございました

の広報担当あわせ。k-hirai-kj@ain.pref.fukui.jp (平井)

tatsu1520@hotmail.com (松井)

行動記録

8月21日 東京～ヘルシンキ 09:00 新東京国際空港集合 11:05 畦陸 15:20 ヴァンター国際空港着 14:40 ホテル着（ラディソンサスプラザホテル） 19:00 夕食（バンケットルーム）	11:50 昼食（アントワーパ）
	11:30 バブーシカ・アートストア
	14:00 エルミタージュ美術館観察
	16:30 ホテル着
	8月25日 サンクトペテルブルグ～ヘルシンキ 班別行動
8月22日 ヘルシンキ～タリン 06:50 ロビー集合 07:10 ヘルシンキ南港到着 08:00 ヘルシンキ発（ノルディックジェットライン） 09:40 タリン（エストニア）着 10:20 徒歩にて旧市街地調査 12:30 旧市庁舎見学 13:00 昼食 15:00 ロッカ・アル・マレ民族博物館 16:15 ホテル着（ラディソンサスホテル） その他、班別行動	15:30 ホテルロビー集合
	16:00 シベリウス号にてヘルシンキへ出発
	18:25 ロシア出国、フィンランド入国
	21:30 フィンランド中央駅到着
	21:50 ホテル着（ラディソンサスプラザホテル）
8月23日 タリン～サンクトペテルブルグ 08:00 ロビー集合 11:10 国境（NARVA）着 11:30 昼食 16:20 エストニア出国 18:00 ロシア入国 21:40 ホテル着（ネフスキーパラスホテル）	8月26日 ヘルシンキ 08:50 ロビー集合 09:00 バスにて市内観察 09:15 シベリウス公園 09:40 セウラサーリ野外博物館 10:50 テンペリアウキオ教会 11:20 元老院広場、ヘルシンキ大聖堂 12:00 昼食 その他、班別行動
	8月27日 ヘルシンキ 班別行動
	14:50 ロビー集合
	16:45 搭乗手続き開始
	17:30 畦陸
8月24日 サンクトペテルブルグ 09:45 ロビー集合 09:50 出発 バスにて、ワシリエフスキイ島の岬～巡洋艦オーロラ号～スパスナクラーヴィ聖堂～イサク寺院（その他、スマーリヌイなどを車内から）	8月28日 東京 08:30 新東京国際空港着 各自帰路へ

※ 時間は全て現地時間です。ヘルシンキ、タリンと日本の時差は-6時間、サンクトペテルブルグとの時差は-5時間です。

出典：ヘルシンキ・タリン・サンクトペテルブルグ都市調査報告（2002年11月）

【分科会報告会】

総会に先立ち、第二十三期の分科会活動報告会が、西嶋靖子氏の司会で開催された。本多会長からの挨拶に始まり、各発表時間七分、コメント二分、質疑二分の時間内容で、今回は七分科から研究成果が報告された。

【地盤分科会】

発表者 那須勝幸氏
討論者 酒井理恵氏

・北潟湖における景観変遷と景観収支
北潟湖湖岸域（流域）の自然環境や開発の状況等について、地形図・空中写真・各種文献等の既存資料の調査と現地調査を行い北潟湖域の過去から現在に至る景観変化の概略をつかむ作業を行った。

【交通分科会】

発表者 川本義海氏
討論者 道久英一氏

・交流と連携から地域を考える（続編）

昨年度に引き続き「交流と連携」をキーワードとして地域を見つめる視点について考察してきた。今年度は昨年度におこなった地域間相互作用の分析による量的な考察に加え、地域間のつながり方の変化・変容に着目し、「史的」観点からの考察を再考するにあたってこれまで本分科会で行った調査研究を振り返るとともに、現在の新たな交流と連携の実態についての調査を加えることによって地域独自の交流・連携の形とそこから見出される地域の個性を探ってきた。

【地盤分科会】

発表者 谷口直子氏
討論者 白井秀和氏

・環境中海圏と環日本海圏の国際交流に関する比較
本期はイタリアを中心とした環境中海圏と日本を中心とした環日本海圏について基礎的なデータを収集し、比較を行った。その結果、日本と環日本海圏の交流は、イタリアと環境中海圏の交流と比べ、相互間の人・ものの動きが少なく、航空路線から見た交通利便性も劣っていることが把握できた。

【都市美分科会】

発表者 白井秀和氏
討論者 福井卓雄氏

・パロック都市をめざしてⅣ
「ローマのポルタ・ピアの事例から学ぶ」
都市における「門」の存在に焦点をあて、ローマのボルタ・ピアを取り上げた。パロック都市が完結した静と示し、ここからパロック都市のもつ「芸術性」の問題を討議する手立てを見いだしたいと述べられた。

【編集後記】

今期も広報を留任さねました。今期の目標は、迅速なRENEWの発行です。会員の皆さま、何かネタになるようなモノがございましたら、どんどん送ってきてください。待ってまーす。
今回から広報支援としてお手伝いすることになりました杉田です。広報としての活動を精一杯努めさせていただきますので、どうぞよろしくお願ひします。
ニコースへの意見・要望、話題提供がございましたら広報担当（メールにて）へ一報下さぬようお願いします。

k-hirai-kj@ain.pref.fukui.jp
e030235@icpc01.icpc.fukui.u.ac.jp (杉田)

★入選作の紹介★



緑分科会活動方針を述べる三田村氏

【緑分科会】

発表者 三田村佳紀氏
討論者 竹内成和氏
・リモートセンシング技術を活用した
福井地域の環境調査
本報告では市街化部分と、用途地域の関係を定性的、定量的に評価し、リモートセンシングによる都市環境把握の有用性について検討した結果を報告。また緑被や水域の分布と都市生活環境との関係についての分析・評価の経過が報告された。

【正会員】

正会員	坂東雅彦
正会員	小泉剛康
学生会員	許彦
学生会員	松浦崇広
	杉田鉄平
	川口充康

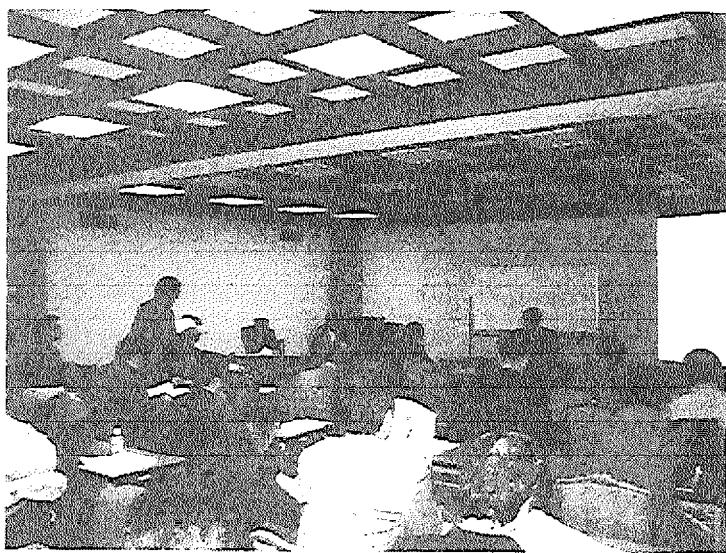
【退会】

正会員	室田有美子
正会員	宇佐美誠史
正会員	西澤智昭
正会員	松本武知
正会員	中山大志
正会員	湯浅陽子
正会員	斎藤克彦

【正会員】



第23期分科会報告会の模様



第一十四期

REF中間報告会開催

REF第二十四期中間報告会が二月十三日（金）、県民会館305号で行なわれた。今回は「地域交流分科会」「都市美分科会」「地盤分科会」「交通分科会」「まちづくり分科会」「緑分科会」の六分科からこれまでの活動及び総会に向けての方針が報告された。

本多会長からの挨拶にはじまり、平井勝治氏の司会の下、各発表時間五分、質疑二分の時間内容で、各分科会から、それぞれ発表者が熱弁を振るつた。また報告後の浅井光氏の総評により、それぞれの研究がさらに深いものとなるであろうと思われた。

最後に幹事長の野村吉範氏から「この中間報告から本報告には更に良いものに仕上げていって欲しい」という閉会の辞で第二

十四回中間報告会は幕を閉じた。

報告会後には懇親会が開かれ、村田安宏氏の司会で様々な人たちのスピーチを交えながら会員相互の交流が深められた。

《各分科会報告内容》

【地域交流分科会】

発表者: 宇野 千晴氏
講評者: 白井 秀和氏

「環海域圏の地域連携・交流」

世界経済において各国または各地域間で、経済国際交流の緊密化を目的とする経済圏の形成などの地域連携・交流が進められている。

このような国際的な潮流の中で、福井県の有する経済的、環境的ポテンシャル等から環日本海連携・交流のなかでのリーダーシップの果たせる分野とこれに伴う効果、影響等を検証していくと述べられた。

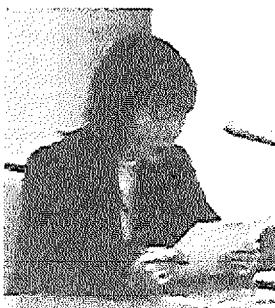
【都市美分科会】

発表者: 白井 秀和氏
講評者: 川本 義海氏

「パロック都市をめざして V」

今回は前回の中間発表で論じたシンメトリリーと対をなすエウリュトミア（質的・量的・調和）なる概念をめぐつてのミリーツィアからの一節が紹介された。

ミリーツィアは、エウリュトミアをつくりだす各要素を簡単に分析したのだが、この分析を都市に適用してみるとどうなるか、これが次回の発表の争点となりそうであると述べられた。



【地盤分科会】

発表者：林 快宗 氏
講評者：村田 安宏 氏

「北潟湖の自然環境の変貌に 関する考察」

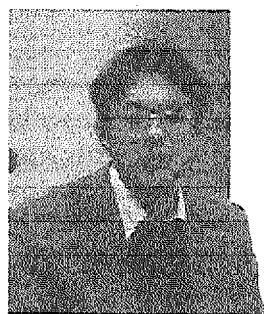
北潟湖は、近年、湖岸及びその周辺で様々な事業が急速に進み、自然環境は大きく変貌してきた。

今回の報告では北潟湖における漁獲量と他の環境の変化項目との相関性についての説明が概略的になされた。

今後、北潟湖の自然環境の変貌のメカニズムの解明とさらには今後の自然と人間の関わり方にについて考えていくと締めくくった。

【交通分科会】

発表者：小塚 みすず 氏
講評者：山田 康之 氏



【まちづくり分科会】

発表者：野嶋 墓一 氏
講評者：宮本 幸数 氏

環境共生都市について

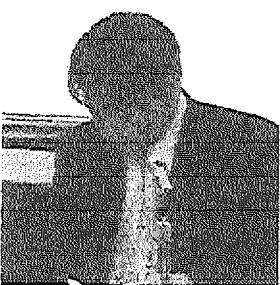
「環境共生都市」の捉え方は多岐に渡っているが、そこでまずこのテーマから何をイメージするかを探つてみることにした。

「共生は人間が環境と助け合いながら生きる相利共生でなければならぬ」とのことをから、福井の自然特性である雪との共生について、県民の雪に対する意識変革の必要性などが述べられた。

今後はこれらをもとにサブテーマを設定し、具体的な施策について検討する予定である。

【緑分科会】

発表者：三田村 佳紀 氏
講評者：那須 勝行 氏



★入選企画★

《選金》
正金圓 三谷 雄皓
《異動》
(正金圓→金友)
佐々木 宏

【編集後記】

R E F リースの発行が遅れてしまい、もう梅雨がやつてしまっています。R E F の活動はじめしないように、自分もがんばりたいと思います。(杉田)

(平井)

R E F リースの発行が遅れてしまい、もう梅雨がやつてしまっています。R E F の活動はじめしないように、自分もがんばりたいと思います。(杉田)

ニューズへの意見・要望、話題提供がございましたら広報担当メールにてお一報下さるようお願いします。
k-hirai-kj@ain.pref.fukui.jp
(平井)

福井県内の数々の街道の存在を確認するとともに、歴史、文化及び交流について学んでいく。

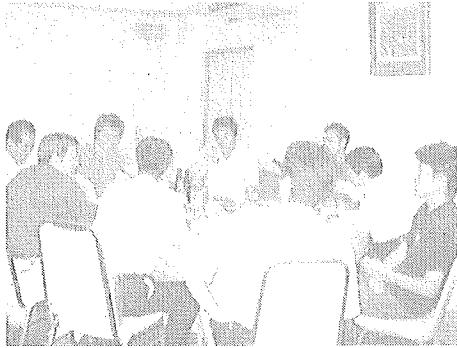
本テーマは2年間にわたるもので、1年目である本年度は、街道に関する文献サーベイを中心に基調査を行なう。今回は7つの文献サベイが紹介された。

また、本年度中に基礎的な資料調査を終了させ、県内あるいは県外の街道数箇所に対し、現地調査を実施する予定である。

リモートセンシング技術を活用した福井地域の環境調査
これまで衛生リモートセンシング技術を利用して福井県内の都市環境の評価や把握を行なっているが、今回は緑地の量や分布と、地表温度上昇の関係を分析し、地表温度上昇の軽減に及ぼす緑地の影響について、緑被率と地表面温度には密接な関係がある」と報告がされた。

今後解析結果の妥当性を検証するとともに、緑地配置計画の基礎資料としての利用可能性について検討していくと述べられた。

e030235@icpc00.icpc.fukui-u.ac.jp
(木田)



その後会場を移し、懇親会が開かれた。安本倫章氏の司会で、様々な人たちは、新入会員たちから交えたながら会員と交換が深められた。

REF 第二十五回総会が七月十二日（土）福井県職員会館で行われ、五十名を超える出席を得て、新役員・新予算などの議決のほか、新役員による今期の活動報告が表明された。総会では、野村吉範幹事長からのあいさつがあり、小嶋直人総務による新人会員紹介及び会員等移動報告、野村吉範幹事長による第二十四期活動報告の後、杉原忠弘氏を議長に選出し議事に移った。決算報告が行われ、主な議決事項としては、新役員案が原案通り議決、予算案についても正会員費が集まらない事や、長期未納者はどうするか、旅費について激しく議論されたが、原案通り議決された。議決後、野嶋慎二新幹事長から活動方針から活動方針が示された。次回開催予定も紹介され、二十五期の活動に期待がもてるものとなつた。

第二十五回総会開催

第二十五回役員（敬称略）○は新任役員
 (任期 平成十六年七月)～平成十七年七月)

顧問	監査	参与	幹事 (総務) 〔支援幹事 (広報) 〔財務 (総務) 〔談話会〕 〔論文・理論研 〔研修会〕 〔ホームページ〕 〔まちづくり〕	副幹事長 (地域交流) 〔幹事 (交通) 〔地盤〕 (緑) 〔都市美〕 〔地象〕	副幹事長 (地域交流) 〔幹事 (交通) 〔地盤〕 (緑) 〔都市美〕 〔地象〕	幹事長 (地域交流) 〔幹事 (交通) 〔地盤〕 (緑) 〔都市美〕 〔地象〕
富永	栗田	近藤	加藤	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
福田	今野	栗田	近藤	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
六郎	伊太郎	秀一	哲男	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
協立測量設計	大坂産業大学	前福井県知事	名古屋産業大学	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

第二十四期決算報告

(平成十五年四月一日)～(平成十六年三月三十一日)

収入の部	費目	前年度予算	予算	増減	備考
会 費		2,111,000	2,069,000	△42,000	
会 費	会員登録料	1,524,000	1,514,000	△60,000	契約登録料
会 費	会員登録料	51,000	51,000	0	契約登録料
会 費	会員登録料	335,000	354,000	+18,000	契約登録料
会 費	会員登録料	109,000	109,000	0	契約登録料
会 費	会員登録料	109,000	109,000	0	契約登録料
保 入 金	第21期会員登録料	148,826	146,340	△2,486	会員登録料
預 金 利 子	第21期会員登録料	148,826	146,340	△2,486	会員登録料
預 金 利 子	利息	74,687	68,326	△6,361	会員登録料
預 金 利 子	利息	74,687	68,326	△6,361	会員登録料
預 金 利 子	利息	0	750,000	+750,000	IRE上り100,000円 積立上り500,000円
預 金 利 子	利息	0	750,000	+750,000	IRE上り100,000円 積立上り500,000円
計		2,260,000	2,965,400	705,400	

第二十五回予算報告

(平成十六年四月一日)～(平成十七年三月三十一日)

支出の部	費目	前年度予算	予算	増減	備考
会 費		1,512,000	2,329,000	808,000	△7,412,000
会 費	会員登録料	560,000	560,000	0	会員登録料
会 費	会員登録料	72,000	85,000	+13,000	会員登録料
会 費	会員登録料	51,000	51,000	0	会員登録料
会 費	会員登録料	335,000	354,000	+18,000	会員登録料
会 費	会員登録料	109,000	109,000	0	会員登録料
会 費	会員登録料	109,000	109,000	0	会員登録料
市 費	会員登録料	148,826	146,340	△2,486	会員登録料
市 費	利息	74,687	68,326	△6,361	会員登録料
市 費	利息	0	750,000	+750,000	IRE上り100,000円 積立上り500,000円
市 費	利息	0	750,000	+750,000	IRE上り100,000円 積立上り500,000円
予 備 金	利息	0	750,000	+750,000	IRE上り100,000円 積立上り500,000円
計		2,260,000	2,965,400	705,400	

収入の部	費目	前年度予算	予算	増減	備考
会 費		1,512,000	2,329,000	808,000	△7,412,000
会 費	会員登録料	560,000	560,000	0	会員登録料
会 費	会員登録料	72,000	85,000	+13,000	会員登録料
会 費	会員登録料	51,000	51,000	0	会員登録料
会 費	会員登録料	335,000	354,000	+18,000	会員登録料
会 費	会員登録料	109,000	109,000	0	会員登録料
会 費	会員登録料	109,000	109,000	0	会員登録料
市 費	会員登録料	148,826	146,340	△2,486	会員登録料
市 費	利息	74,687	68,326	△6,361	会員登録料
市 費	利息	0	750,000	+750,000	IRE上り100,000円 積立上り500,000円
市 費	利息	0	750,000	+750,000	IRE上り100,000円 積立上り500,000円
予 備 金	利息	0	750,000	+750,000	IRE上り100,000円 積立上り500,000円
計		2,260,000	2,965,400	705,400	

【分科会報告会】

【緑分科会】

発表者 道久英一氏
討論者 白井秀和氏

・リモートセンシング技術を活用した

総会に先立ち、第二十四期の分科会活動報告会が、服部正秀氏の司会で開催された。本多会長からの挨拶に始まり、各発表時間七分、コメント二分、質疑三分の時間内容で、今回は五分科から研究成果が報告された。

【地盤分科会】

発表者 林 快宗氏
討論者 川本義海氏

・北潟湖の自然環境の変貌に関する考察
北潟湖湖岸域（流域）の自然環境や開発の状況等について、横断面・水質・農業・漁業の面を中心につら現地調査を行い北潟湖域の過去から現在に至る景観変化の概略をつかむ作業を行った結果の報告がされた。今まで行われた開発が負の影響を与えた為、やわらかい整備が必要だが、具体的なところまでいってないのが現状である。今後、地域住民とのかかわりが大事となり、また北潟湖をケースタディとして小さな湖のことを考えていくことが期待される。

【交通分科会】

発表者 小塚みすず氏
討論者 鈴木修二氏

・福井の街道と歴史と文化と交流
本年度は基礎調査として①街道に関する文献サーベイ、②街道の価値と活用の評価、③現地調査を実施することにより、街道の基礎的情報の把握と街道の価値を探ることを行った。街道の価値については街道の持つ価値を多角的視点から捉え、あらためて見つめてみると、この意味で分科会のメンバーを中心にブレーンライティングを行い、挙げられた64項目の特徴や類似点から「自然」、「情報・交流」、「歴史・文化」、「経済」、「町・地域づくり」の5分類にして考察した。その結果、「情報・交流」は現状の価値は最も高く、今後の街道の活用といつた面から考えると、重要な要素となることは間違いない。また、若狭街道、北国街道の事例調査の結果を報告した。今後は地域とのかかわり等からアプローチして、北海道で同じような研究分野があるので、勉強してみてはどうかという討論がなされた。

☆入退会のおしらせ☆

《入会》	
正会員	鈴木 修二
学生会員	萩原 貞宏
中村 健志	中村 健志
帰山 洋志	帰山 洋志
徳岡 秀一	徳岡 秀一

迷惑施設に対する認識の変化については、時間との関係・距離との関係・付随施設の立地・施設の位置付けの見直しの観点から実態の把握した。今後は具体的な施設を対象として、以上で挙げたことを数値化して示し、共生に向けた方向性を示していく予定である。

【都市美分科会】

発表者 白井秀和氏
討論者 脇本幹雄氏

・パロック都市をめざしてVI
—カトルメール・ド・カンシーオ
エウリュトミア論から—
今回の発表会では、フランスの建築理論家であったカトルメール・ド・カンシーの本格的なシンメトリーエウリュトミア論を紹介し、パロック都市形成への、より強力な手掛かりを探つた。その結果、カンシーの論考はきわめて水準が高く、これを直ちに都市形成に活用するなどということは、困難であるが、美的判断能力などの問題は、都市美の概念の研究に少なからず寄与することとなつた。

討論では、図面上の比例と感覚的な比例は実際には差があり、補正機関としてエウリュトミアで捕つていく考えが重要であるという意見がでた。



第24期分科会報告会の模様

【編集後記】

【編集後記】
今回から広報を担当させていただくことになりました。至らない点も多いかと思いますが、一年間よろしくお願いします。と、もつともらしい事を書いておきながら、今回の原稿作成は全て帰山さんに一任していました。帰山さんありがとうございました。
（飯塚）

本年度、広報支援としてお手伝いすることになりました。広報としての活動をサポートさせていただきますので、どうぞよろしくお願いします。帰山さんありがとうございました。
（飯塚）

【分科会報告会】

【地図分科会】

発表者 橋本英治氏
討論者 林 快宗氏

「福井豪雨における降雨特性と土砂災害の検証」

総会に先立ち、第二十五期の分科会活動の報告が開催された。今回は四分科会から研究成果が報告された。福井豪雨を題材とするなど地域に根ざしたテーマを基に、基礎的なデータをとらえたREFらしい報告が行われた。今年度、IREからの奨励金は交通・緑分科会に授与された。以下に簡単な研究の要旨と議論された内容について掲載する。

【地盤分科会】

発表者 朝日郁代氏
討論者 橋本英治氏

「地域事情に合わせた災害体制の考察
—社南地区を対象として—」

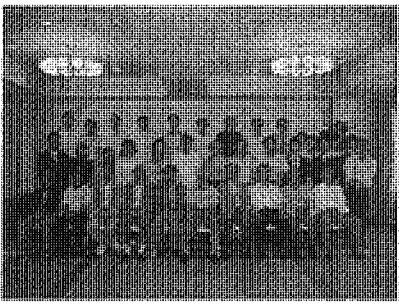
福井豪雨の反省を生かすために災害体制を題材にし、社南地区をケーススタディとして、過去の災害の状況、旧河道や土質状況、土地条件などの基礎的な情報を押さえるとともに、避難経路、体制について検討を行っている。今後、避難経路・場所のポテンシャルについて検討を進めてほしい。

【交通分科会】

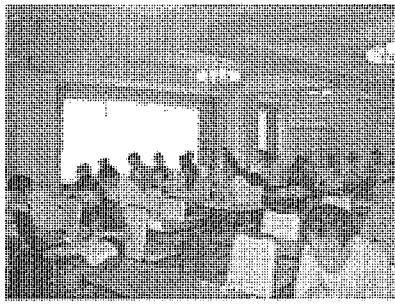
発表者 小塙みすず氏
討論者 三田村佳紀氏

「福井の街道の歴史と文化と交流（その2）」

街道の持つ価値ということで、全国8箇所の現地調査、インターネットによるブレインストームミングを基に分析を行っている。観光面の施策、街道の魅力と上を図る上での基礎的な研究となっている。



第26回総会終了後の集合写真



第25期分科会報告会の模様

降雨特性と土砂災害の発生の関係について、福井豪雨を基に検証を行っている。降雨量と土砂崩れの関連性について分析している。住民が「特別警戒区域」、「降雨量」などをもとに体制を取るための判断基準をもとめる基礎的な研究など

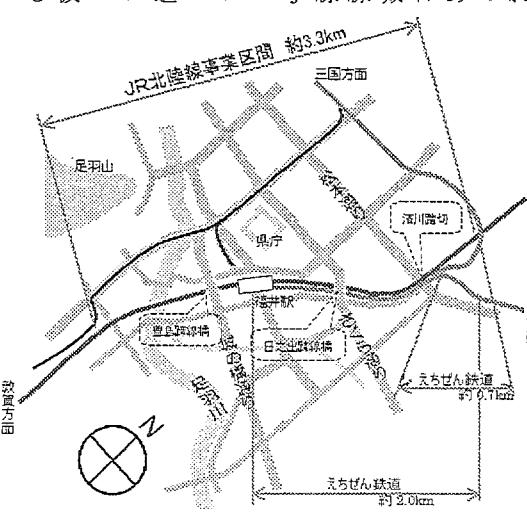
【福井県内のまちづくりの話題】

「福井駅付近連続立体交差事業」

福井市中心部において、鉄道を一定区間連続して高架化し、踏切をなくす「福井駅付近連続立体交差事業」のうち、JR北陸線の延長3・3kmの高架化が平成8年7月の工事着手以来、約9年を経て完成し、平成17年4月18日にJR北陸線が高架切替えとなつた。

現在は、それぞれ2~3万台/日の自動車交通量であつたさくら通り(日之出跨線橋部)、城の橋通り(豊島跨線橋部)とも、4車線で開通しており、JR東西の交通がスマートとなつていい。

平成16年には、足羽川高水敷を仮設の迂回道路として活用された。



【編集後記】

さて、REFニュースについては、総会、分科会活動などの活動内容について、今まで年間数回をめどに郵送により発行してきました。REFも創設25周年を迎えて、近年のメールによる情報交換の一般化、興味の持てる紙面の充実の必要性などに対しても、次回からのREFニュースについては、下記により取り組むこととします。

1. REF冊子の送付以外は、基本的にメールにてREFニュース談話会の開催予定、研修会の募集などの情報を提供すること
2. なお、郵送者とメール送付者で会費は同じとするが、メール送付者に対しては1回あたりの送付代金が安くなることから、きめ細かく様々な情報を提供していきたいと考えている。
3. 県外在住者に対する県内のまちづくりの動きを情報提供すること
4. 雑学、コラムなど興味の持てる内容を追加すること